



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

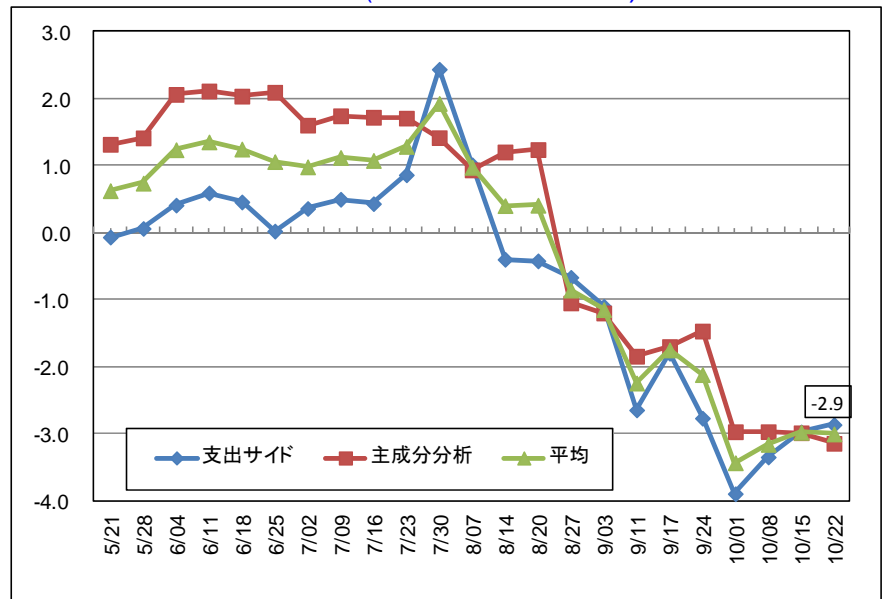
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年10月22日)

ポイント

- ▶先週は、8月の鉱工業生産指数(確報値)、毎月勤労統計(確報値)、建設総合統計が予測のために更新。これらは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、公的固定資本形成、雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。
- ▶新たなデータを更新した今週のCQM予測(支出サイド)は、7-9月期実質GDP成長率を、内需と純輸出がともに縮小するため前期比年率-2.9%と予測。先週の予測から小幅の上方修正にとどまった。
- ▶中国の7-9月期実質GDP成長率は前年同期比+7.4%と7期連続で減速したが、前期比は+2.2%と前期から加速した。
- ▶確かに、中国経済は景気減速から抜け出し底を打つ可能性が出てきたが、仮にそうだとした場合、日本の対中輸出が回復するのはまだまだ先であろう。中国経済の先行きが確実に日本経済のリスク要因(踊り場から不況局面へ)になりつつある。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%，前期比年率換算)



＜中国経済の先行きが日本経済が踊り場から不況局面へ転じるリスク要因に＞

先週(10/15-10/19)は、8月の鉱工業生産指数(確報値)、全産業活動指数、毎月勤労統計(確報値)、景気動向指数(改定値)、建設総合統計が更新された。これらのデータは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、公的固定資本形成、雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。新たな月次指標を更新した今週のCQM予測(支出サイド)は、7-9月期実質GDP成長率(前期比年率換算)を、内需と純輸出がともに縮小するため-2.9%と予測。先週の予測(-3.0%)から小幅の上方修正にとどまった。

8月の資本財出荷指数(確報値)は前月比+0.7%上昇し速報値から上方修正。この結果、7-9月期の実質民間企業設備の予測値は先週から小幅上方修正(前期比-3.4%→-3.2%)。8月の最終財在庫指数も速報値から上方修正されたため、実質民間企業在庫品増減の予測値も小幅上方修正。一方、8月の公共投資(建設総合統計)は前月比-0.2%減少し3ヵ月連続のマイナスとなったが、7-8月平均は4-6月期平均比+4.9%高い水準にある。この結果、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から小幅下方修正(前期比+3.2%→+3.1%)にとどまった。このように、民間企業設備、在庫品増減の予測値は上方修正されたが、公的固定資本形成の予測値が下方修正されたため、実質GDP成長率の予測値には大きな変更はなかった。

18日に中国の7-9月期GDP統計が発表された。実質GDP成長率は前年同期比+7.4%と7期連続で減速したが、前期比は+2.2%と前期(+1.8%)から加速した。この結果については評価が分かれる。確かに、中国経済は景気減速から抜け出し底を打つ可能性が出てきたが、仮にそうだとした場合、領土問題をめぐる中国の対日強硬姿勢の収束にめどが立たず、日本の対中輸出が回復するのはまだまだ先であろう。中国経済の先行きが確実に日本経済のリスク要因(踊り場から不況局面へ)になりつつある。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550